

# 校長先生の初恋物語

## 第13話 足長君のいやがらせ

よしこさんの部屋の中に入ってすぐ、足長君のいやがらせはスタートしました。

「とっくん、来るのが遅いよ。ぼくとちがって、足が短いから、しかたないか。」

そのばかにする言葉に、足長君のファンをしている女の子たちといっしょに、ケラケラ笑

います。足長君はさらにちょうしにのります。「とっくんのその服、体操服だよ。今日は、お誕生日パーティーだよ。おしゃれは当然だ

ろ。なんで体操服なんだよ。ださいなあ。」

またもや足長ファンの女の子たちは大笑い。よく見ると、みんなきれいな服で、ダンプさんも、よそいきの服でした。足長君は、スーツを着て、蝶ネクタイまでしていました。体操服で来てしまったことは、とっくんの失敗かもしれません。でも、おしゃれな服などもっていません。くつしたにも穴が空いていて、そのことをさんざん笑われました。

ケーキを食べるときにも、足長君のいやがらせは続きました。

「とっくん、ケーキなんて食べたことないだろ。ケーキがめずらしいから、がつがつ食べるんだな。がつがつ食べるのもいいけど、おさらまで食べちゃわないように。」

足長ファン女子軍団は、おなかをかかえて笑っていました。

あまりにもいやがらせが多くて、さすがに頭にきました。だからこっちも何か言い返そうと思った時、とっくんのかわりにきょうれつな雷をおとしてくれた人がいました。ダンプさんです。

「足長君、さっきから、とっくんのことをばかにしてばっか



りでしょ。とっくんをいじめたら、ダンプがゆるさないからね。足長君、だまってなさい。ドカーン。」

ダンプさんのはくりよくあるその言葉で、ようやく足長君はおとなしくなりました。やっぱりダンプさんのすごいです。やっぱりダンプさんのことが大好きです。

ケーキを食べた後、みんなでボードゲームをしました。その時に、よしこさんのお母さんが部屋に入ってきて、おかしをもってきてくれました。

「さあみんな、よしこの家はおかしやだから、おかしだけはいくらでもあるのよ。えんりよしないで、食べてね。」

みんな大喜びしておかしにとびつきました。とっくんも、おかしのおさらにとびつきました。でも、そのしゅんかん、こおりついてしまいました。なんと、目の前にある、よしこさんのお母さんが持ってきたおかし皿の中に入っていたおかしは、カールのチーズ味だったのです。とっくんがよしこさんにプレゼントとして持ってきたカールのチーズ味です。このあと、おかしを食べながら、よしこさんに一人ずつプレゼントを渡すことになっています。ということは、とっくんは、カールのチーズ味をぼりぼり食べながら、よしこさんにカールのチーズ味をわたすということです。よしこさんも、カールのチーズ味をぼりぼり食べながら、とっくんからプレゼントをもらって、つつみをあけたら、カールのチーズ味が出てくるってことです。よしこさんは、喜んでくれるでしょうか。

そんなのむりです。喜んでくれるわけがありません。きっと、足長君は大笑びして、またとっくんをばかにするでしょう。

「どうしよう。これでは、プレゼントをわたすわけにはいかないよ。」

とっくんは、こまってしまいました。人生最大のピンチ、このピンチを、とっくんは、どうのりこえたらいいのでしょうか。



次回予告

渡せないプレゼント